



株式会社 **ニコン**
広報・IR部

2010年3月期決算説明会

2010年5月11日
株式会社ニコン

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

I . 2010年3月期の概況

II . 2011年3月期の見通し

III . 参考データ



2010年3月期 連結売上高・損益



単位: 億円	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	10年3月期 実績	上期 下期	前年実績比	前回予想比
売上高	8,797	$\frac{4,871}{3,926}$	7,700	$\frac{3,681}{4,019}$	7,855	$\frac{3,681}{4,174}$	▲942	+155
営業利益 売上高比	482 5.5%	$\frac{541}{\text{▲59}}$	▲160 -%	$\frac{\text{▲195}}{35}$	▲139 -%	$\frac{\text{▲195}}{56}$	▲621	+21
経常利益 売上高比	477 5.4%	$\frac{531}{\text{▲54}}$	▲190 -%	$\frac{\text{▲223}}{33}$	▲153 -%	$\frac{\text{▲223}}{70}$	▲630	+37
当期純利益 売上高比	281 3.2%	$\frac{336}{\text{▲55}}$	▲170 -%	$\frac{\text{▲177}}{7}$	▲126 -%	$\frac{\text{▲177}}{51}$	▲407	+44
為替:ドル (円) ユーロ	101 144	$\frac{106}{95}$ $\frac{163}{125}$	93 132	$\frac{96}{90}$ $\frac{133}{131}$	93 131	$\frac{96}{90}$ $\frac{133}{129}$	売上高への影響額(億円) ▲520	▲14 営業利益への影響額(億円) ▲270 ▲11

円高の進行に加え、2Qに精機事業で棚卸評価減の追加があり、通期では赤字だが、下期は3半期ぶりに黒字達成

* 前回予想とは2010年2月4日発表における予想です。

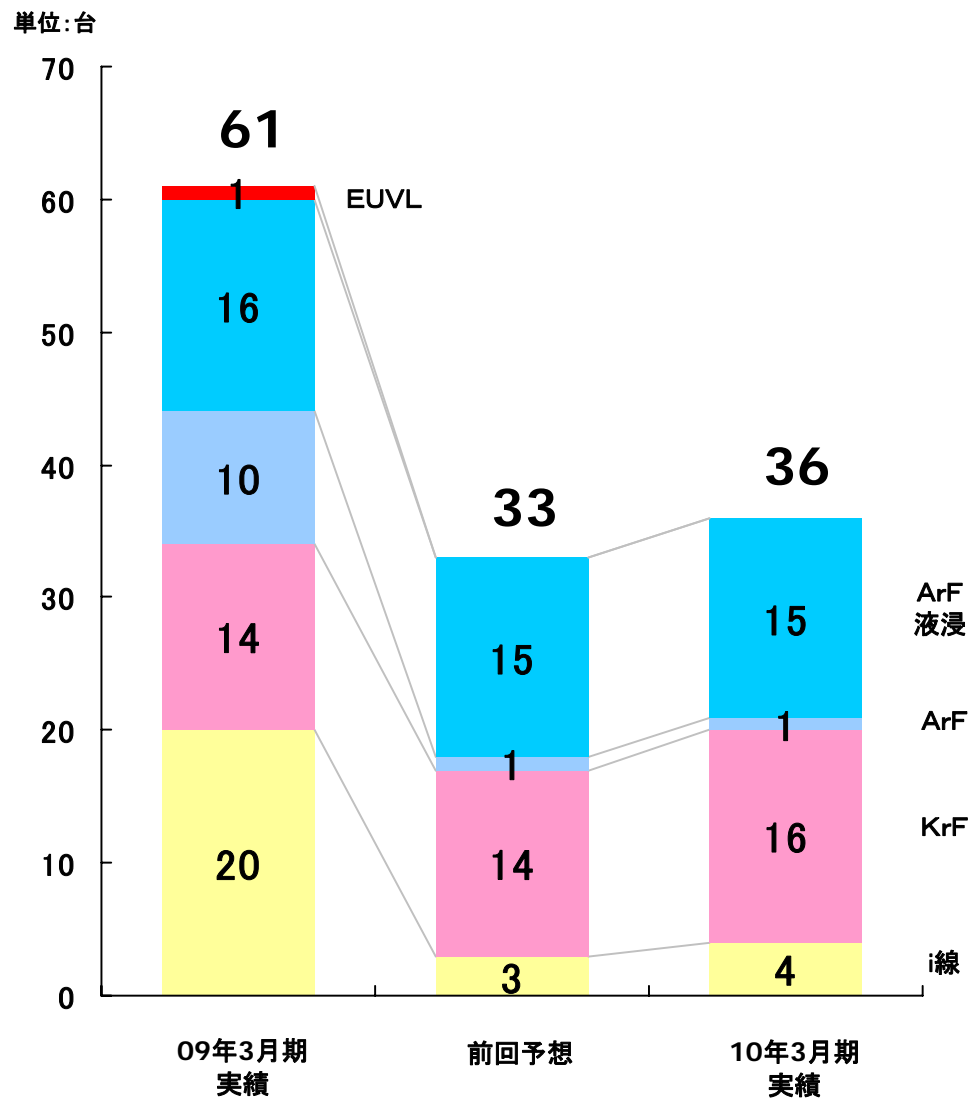
2010年3月期 精機カンパニー



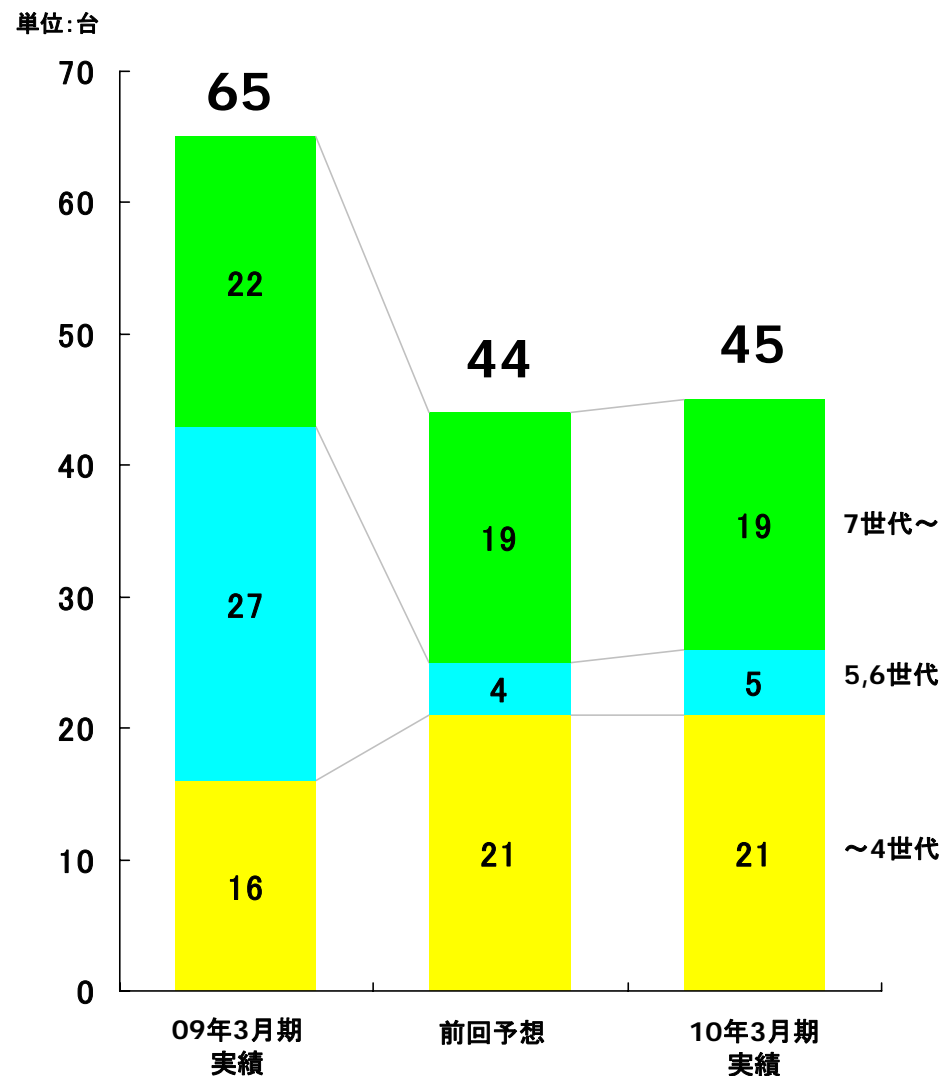
	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	10年3月期 実績	上期 下期
売上高	2,199億円	$\frac{1,172}{1,027}$	1,400億円	$\frac{663}{737}$	1,501億円	$\frac{663}{838}$
営業利益 売上高比	80億円 3.6%	$\frac{122}{\blacktriangle 42}$	▲580億円 -%	$\frac{\blacktriangle 440}{\blacktriangle 140}$	▲586億円 -%	$\frac{\blacktriangle 440}{\blacktriangle 146}$
半導体露光装置 新品/中古	61/17台	$\frac{32/10}{29/7}$	33/11台	$\frac{18/4}{15/7}$	36/13台	$\frac{18/4}{18/9}$
液晶露光装置	65台	$\frac{37}{28}$	44台	$\frac{16}{28}$	45台	$\frac{16}{29}$
半導体露光装置 市場規模	200台		— 台		112台	
液晶露光装置 市場規模	137台		— 台		74台	

露光装置市場の冷え込みにより、前年比の販売台数は半導体用が4割減、液晶用が3割減。 棚卸評価減の追加(2Q)もあり、大幅な営業赤字

半導体露光装置光源別販売台数



液晶露光装置世代別販売台数



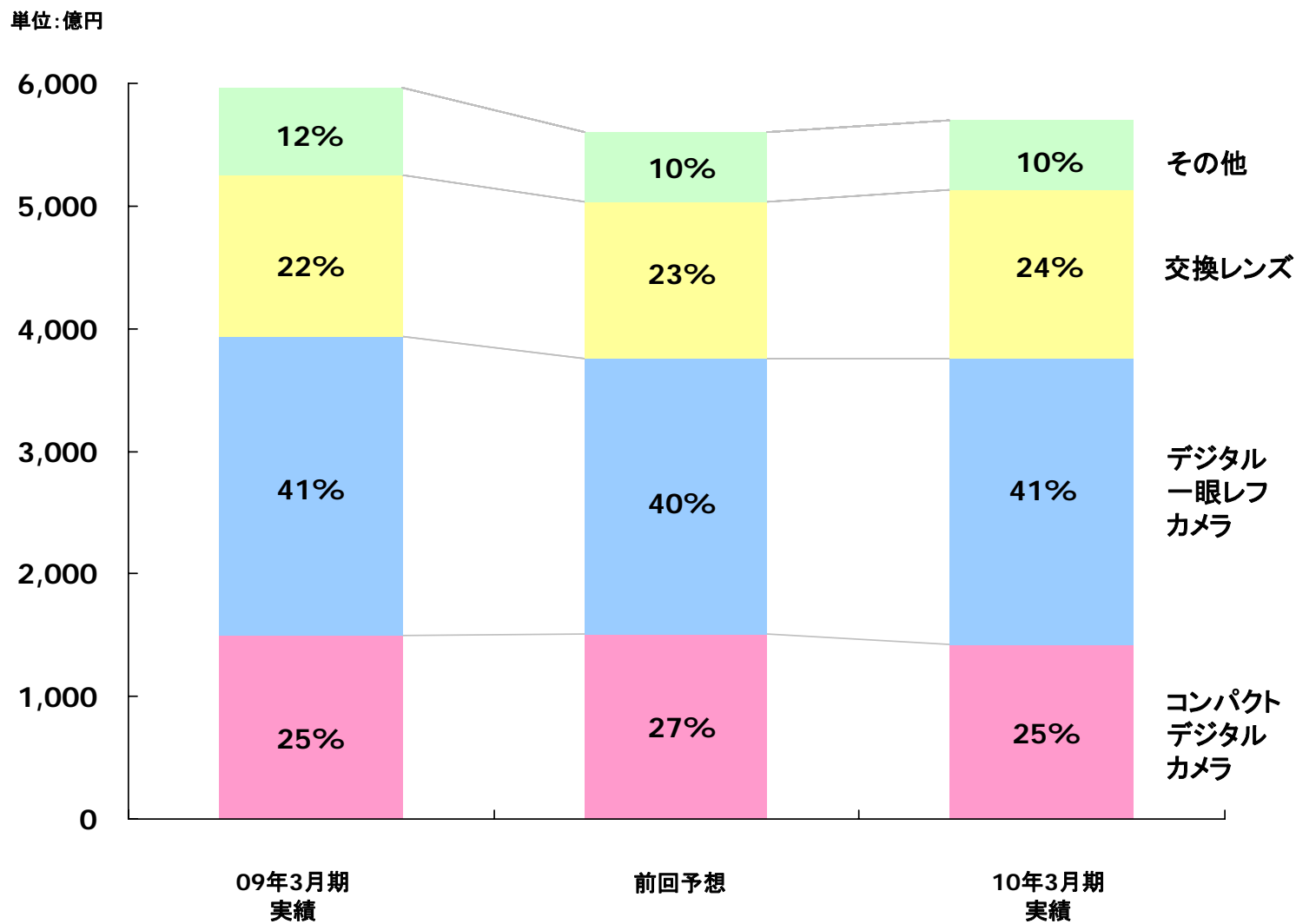
2010年3月期 映像カンパニー



	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	10年3月期 実績	上期 下期
売上高	5,965億円	$\frac{3,372}{2,593}$	5,600億円	$\frac{2,753}{2,847}$	5,695億円	$\frac{2,753}{2,942}$
営業利益 売上高比	400億円 6.7%	$\frac{420}{\blacktriangle 20}$	500億円 8.9%	$\frac{265}{235}$	521億円 9.1%	$\frac{265}{256}$
デジタル一眼レフ カメラ	342万台	$\frac{174}{168}$	355万台	$\frac{166}{189}$	367万台	$\frac{166}{201}$
交換レンズ	487万本	$\frac{245}{242}$	515万本	$\frac{245}{270}$	545万本	$\frac{245}{300}$
コンパクトデジタル カメラ	1,033万台	$\frac{506}{527}$	1,150万台	$\frac{513}{637}$	1,151万台	$\frac{513}{638}$
デジタル一眼レフ カメラ市場規模	913万台		1,000万台		1,088万台	
交換レンズ市場規模	1,480万本		1,600万本		1,772万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	10,369万台		9,800万台		10,274万台	

円高の影響で前年比減収だが、逆風のなかでも増益を達成。コンパクトタイプは、市場(出荷ベース)が前年比微減のなか、1割を超える販売台数増の実績

販売金額の製品別構成比

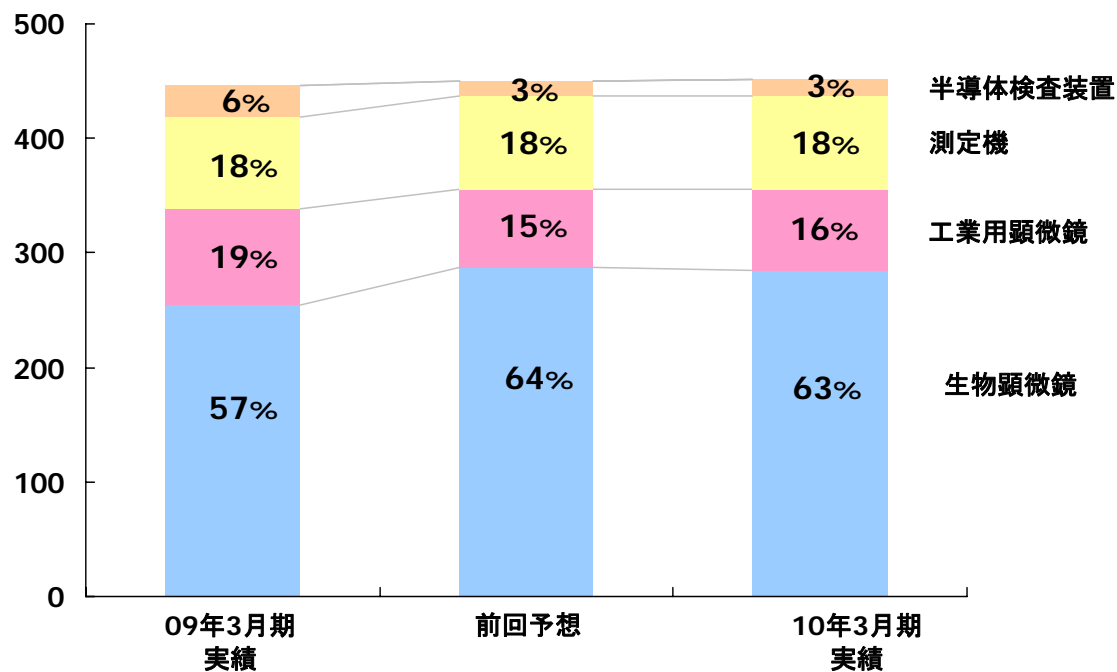


2010年3月期 インストルメンツカンパニー



	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	10年3月期 実績	上期 下期
売上高	446億円	$\frac{232}{214}$	450億円	$\frac{178}{272}$	451億円	$\frac{178}{273}$
営業利益 売上高比	▲27億円 -%	$\frac{\triangle 13}{\triangle 14}$	▲100億円 -%	$\frac{\triangle 26}{\triangle 74}$	▲93億円 -%	$\frac{\triangle 26}{\triangle 67}$

単位: 億円



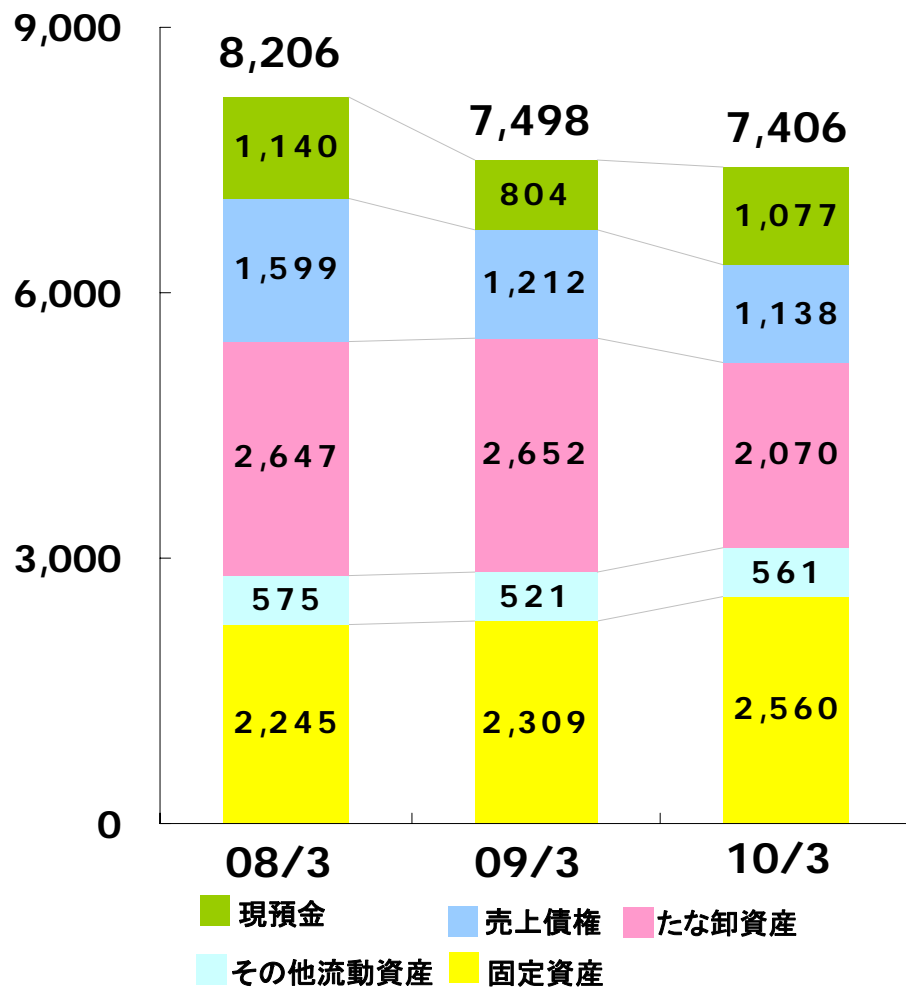
景気悪化による産業機器事業の不振に加え、Metris社(現 Nikon Metrology社)統合に伴う一時費用もあり、カンパニー全体で前年比赤字拡大

2010年3月期 B/S内訳



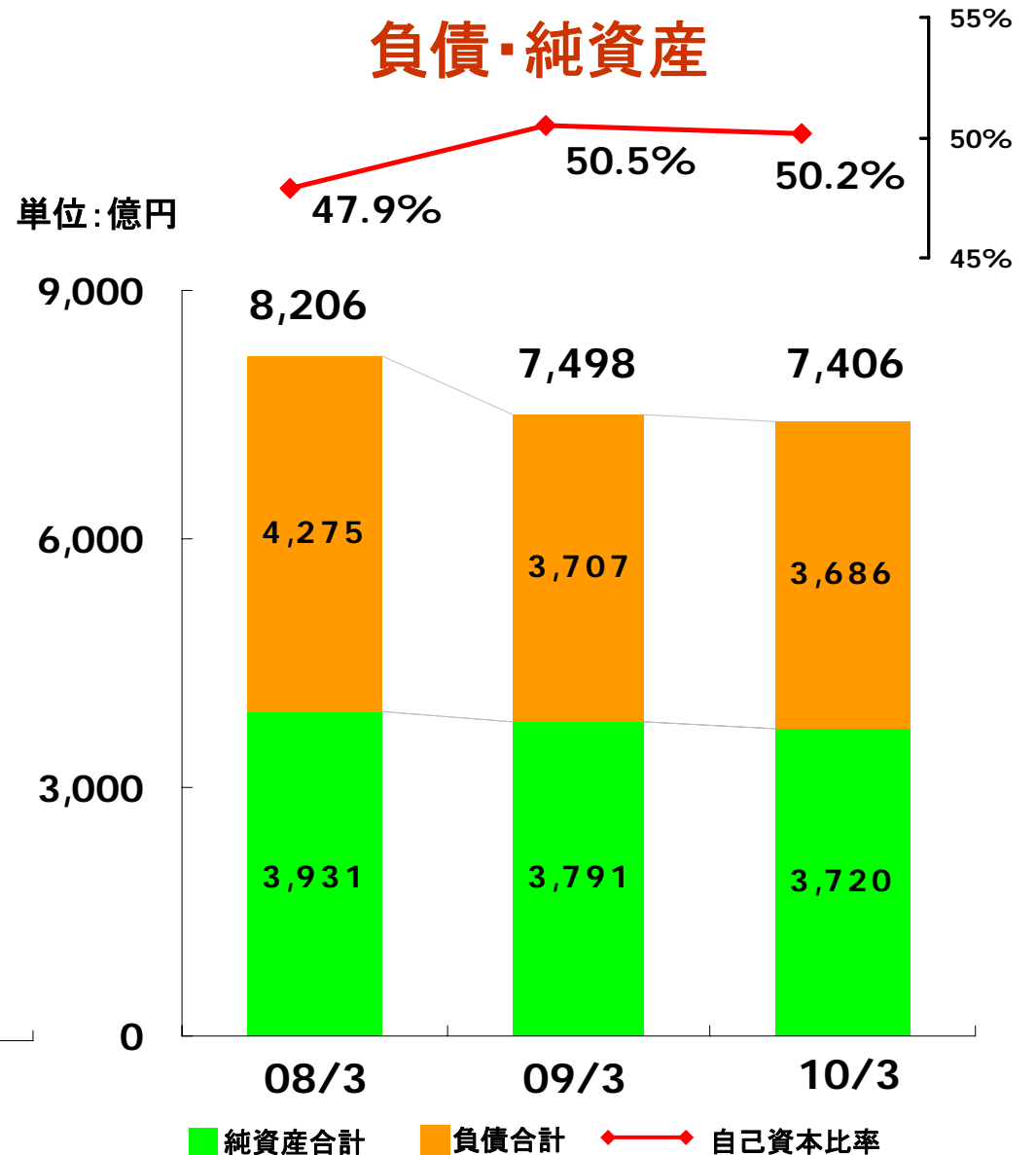
資産

単位: 億円



負債・純資産

単位: 億円

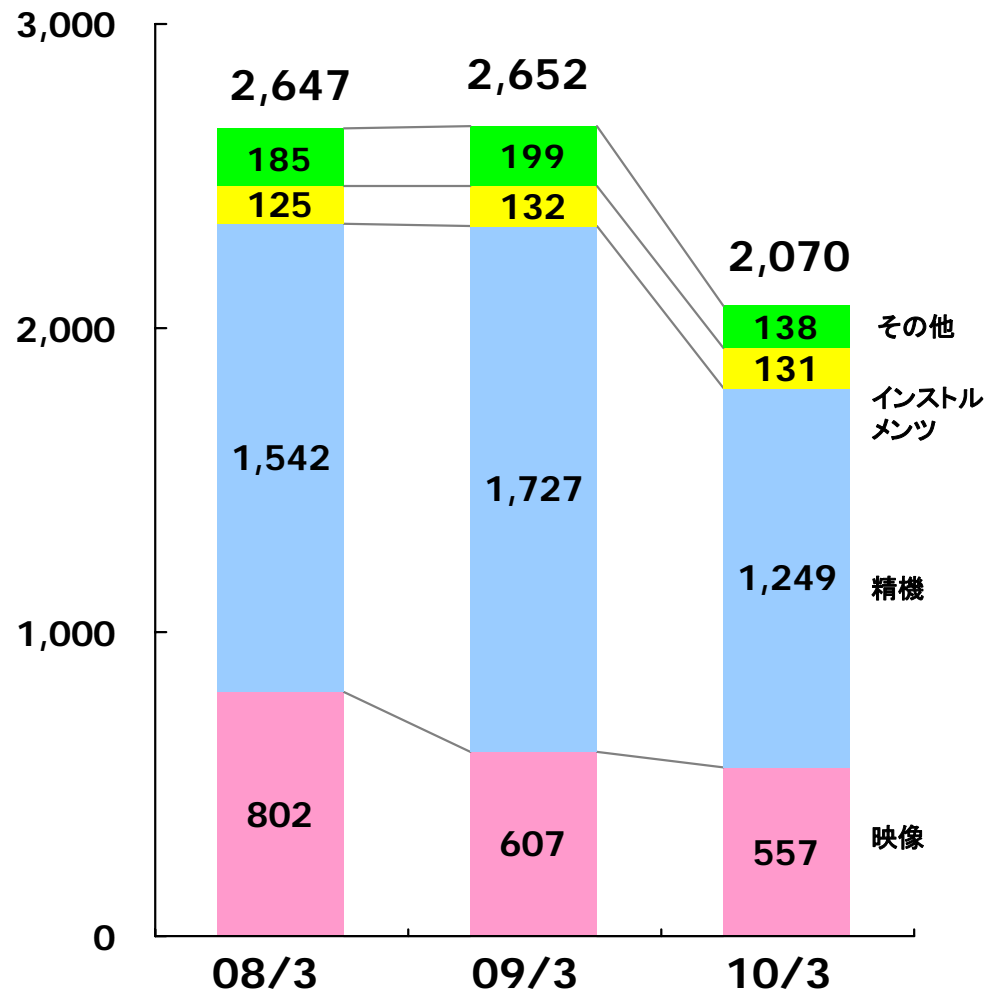


2010年3月期 棚卸資産 有利子負債・現預金



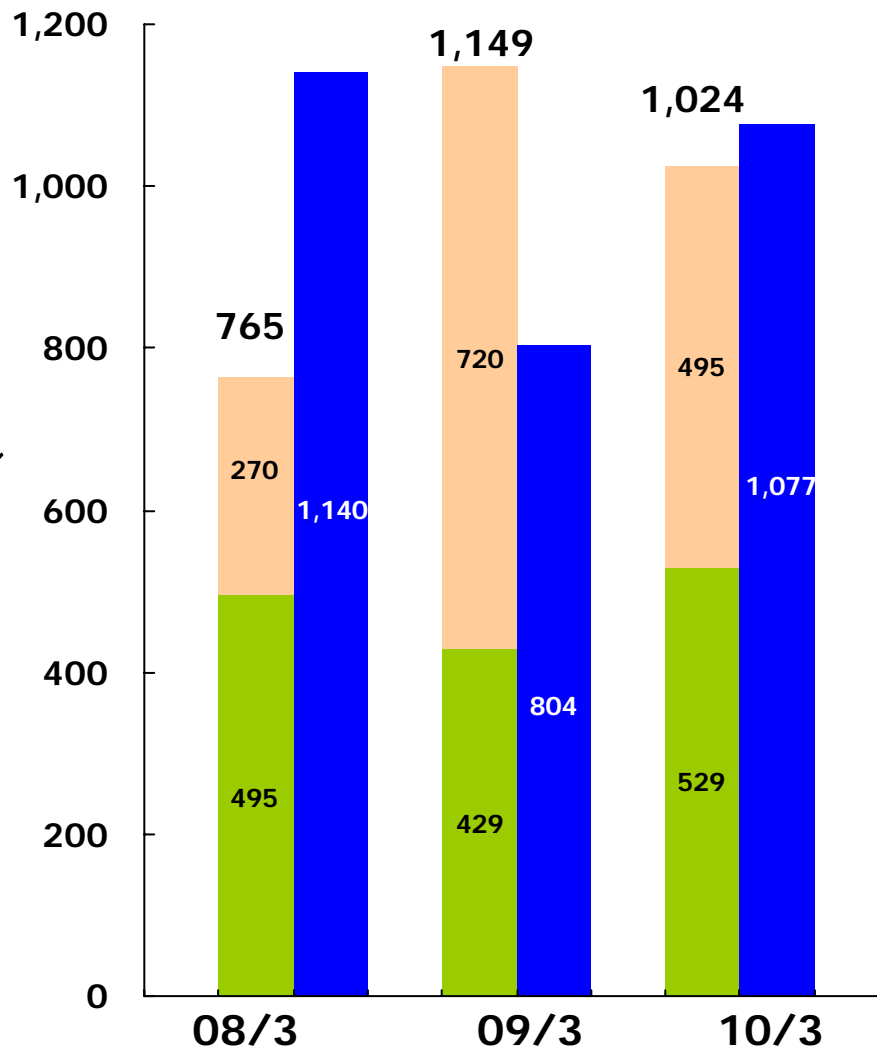
棚卸資産

単位:億円



有利子負債・現預金

単位:億円

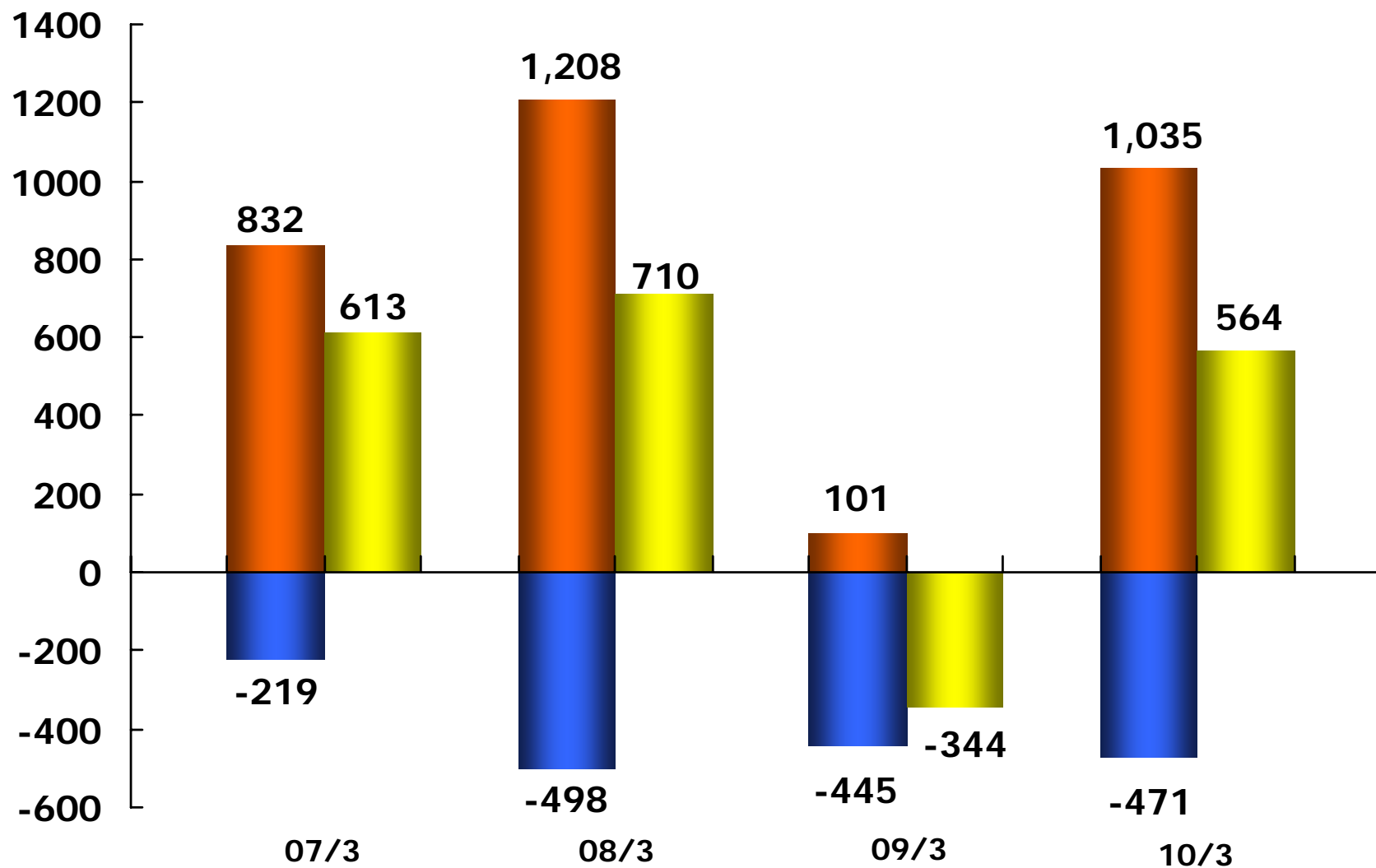


■ 社債 ■ 借入金等(リース債務含む) ■ 現預金

2010年3月期 キャッシュフロー



単位: 億円



営業キャッシュフロー 投資キャッシュフロー フリーキャッシュフロー

◆下期、営業黒字を確保。通期では市況低迷・円高の影響に加え、
精機事業で棚卸評価減の追加(2Q)もあり、減収・赤字決算

【精機】

- ・半導体・液晶露光装置とも市場の冷え込みの影響により、売上低迷
- ・事業拠点再編統合、棚卸の見直しなど構造改革を実行

【映像】

- ・前年比、各製品群の販売台数は増加したが円高の影響で減収。経費の絞込み、調達合理化によるコストダウン、海外調達拡大などにより増益を達成

【インストルメンツ】

- ・Metris社(現Nikon Metrology社)を買収・統合し、測定機事業の飛躍に布石

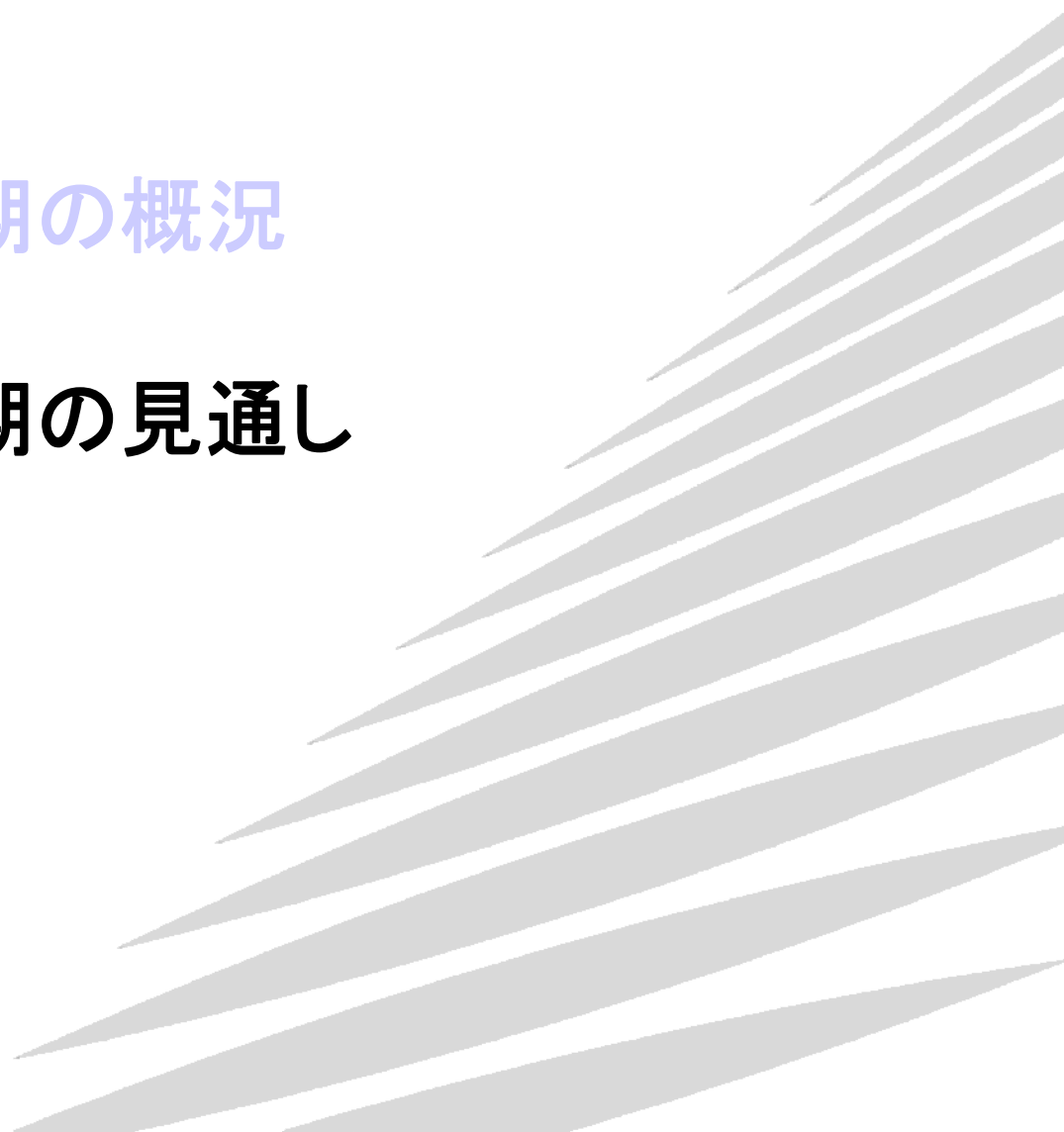
◆期末配当金は4円、年間配当金は8円

Agenda

I . 2010年3月期の概況

II . 2011年3月期の見通し

III . 参考データ



2011年3月期見通し 連結売上高・損益



	10年3月期 実績	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期	前年実績比
単位:億円					
売上高	7,855	$\frac{3,681}{4,174}$	8,800	$\frac{3,950}{4,850}$	+945
営業利益 <small>売上高比</small>	▲139 -%	$\frac{▲195}{56}$	520 5.9%	$\frac{75}{445}$	+659
経常利益 <small>売上高比</small>	▲153 -%	$\frac{▲223}{70}$	500 5.7%	$\frac{70}{430}$	+653
当期純利益 <small>売上高比</small>	▲126 -%	$\frac{▲177}{51}$	300 3.4%	$\frac{40}{260}$	+426
FCF	564	$\frac{156}{408}$	500		▲64
為替:ドル (円)ユーロ	93 131	$\frac{96}{90}$ $\frac{133}{129}$	90 120		売上高への予想影響額 約▲300億円 営業利益への予想影響額 約▲120億円

映像事業は引き続き堅調、精機事業の大幅改善により、通期で黒字化の見込み

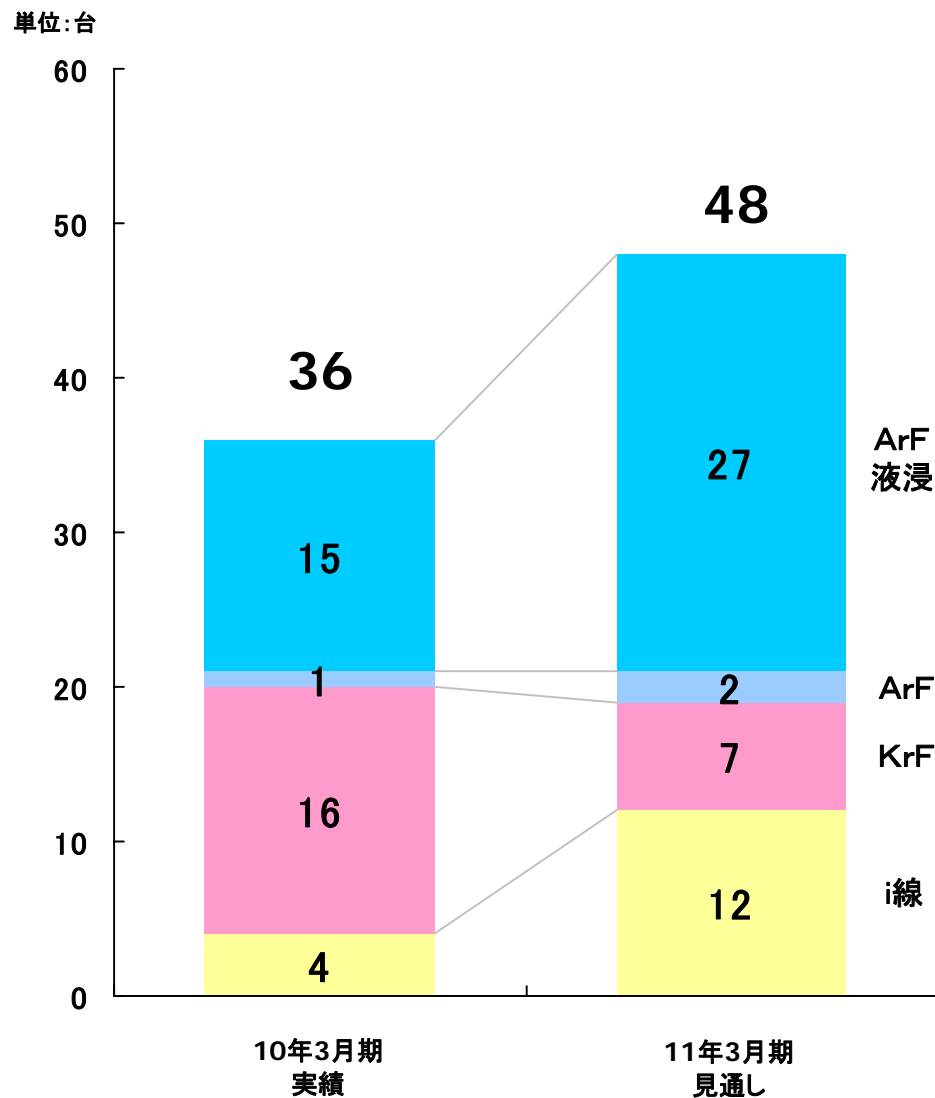
2011年3月期見通し 精機カンパニー



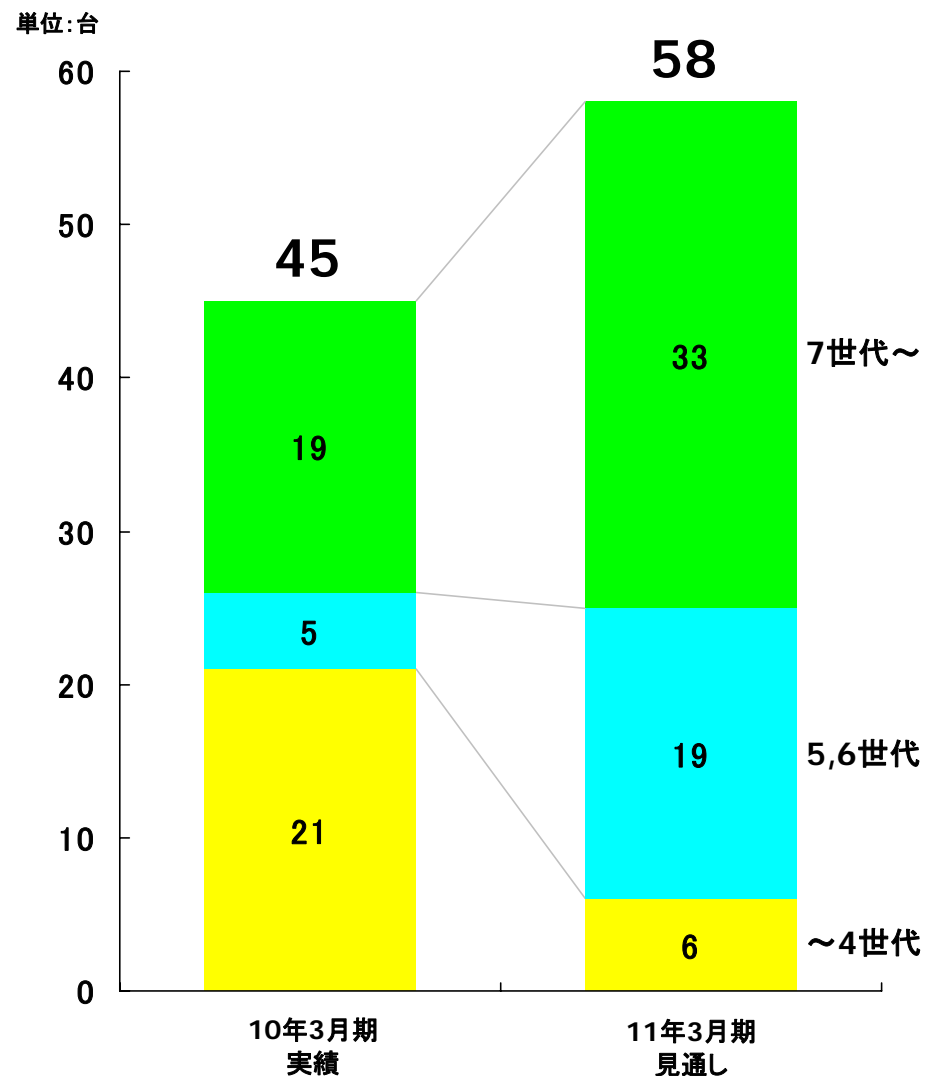
	10年3月期 実績	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期
売上高	1,501億円	$\frac{663}{838}$	2,100億円	$\frac{800}{1,300}$
営業利益 <small>売上高比</small>	▲586億円 <small>-%</small>	$\frac{\blacktriangle 440}{\blacktriangle 146}$	30億円 <small>1.4%</small>	$\frac{\blacktriangle 80}{110}$
半導体露光装置 新品/中古	36/13台	$\frac{18/4}{18/9}$	48/22台	$\frac{17/9}{31/13}$
液晶露光装置	45台	$\frac{16}{29}$	58台	$\frac{24}{34}$
半導体露光装置 市場規模	112台		200台程度	
液晶露光装置 市場規模	74台		110台程度	

露光装置市場の回復と、構造改革による固定費削減に加え、前年のような棚卸評価減の特殊要因がないことにより、黒字化の見込み

半導体露光装置光源別販売台数



液晶露光装置世代別販売台数



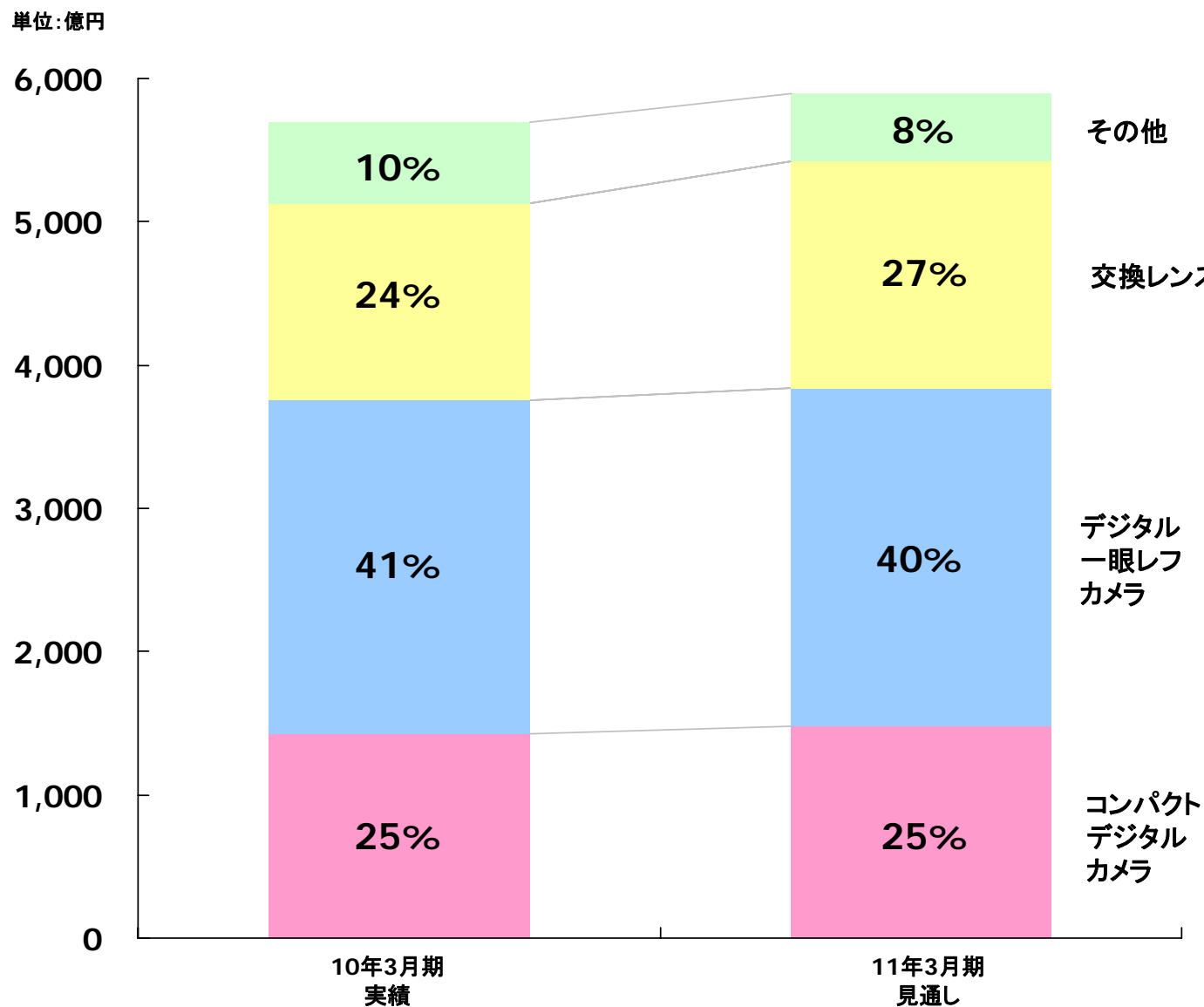
2011年3月期見通し 映像カンパニー



	10年3月期 実績	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期
売上高	5,695億円	<u>2,753</u> 2,942	5,900億円	<u>2,800</u> 3,100
営業利益 <small>売上高比</small>	521億円 9.1%	<u>265</u> 256	520億円 8.8%	<u>200</u> 320
デジタル一眼レフ カメラ	367万台	<u>166</u> 201	420万台	<u>190</u> 230
交換レンズ	545万本	<u>245</u> 300	615万本	<u>280</u> 335
コンパクトデジタル カメラ	1,151万台	<u>513</u> 638	1,250万台	<u>570</u> 680
デジタル一眼レフ カメラ市場規模	1,088万台		1,200万台	
交換レンズ市場規模	1,772万本		2,000万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	10,274万台		10,500万台	

一眼レフと交換レンズは、市場・販売台数ともに順調に拡大する見通し。
一層の円高が進行するなか、前年並みの利益を維持する計画

販売金額の製品別構成比

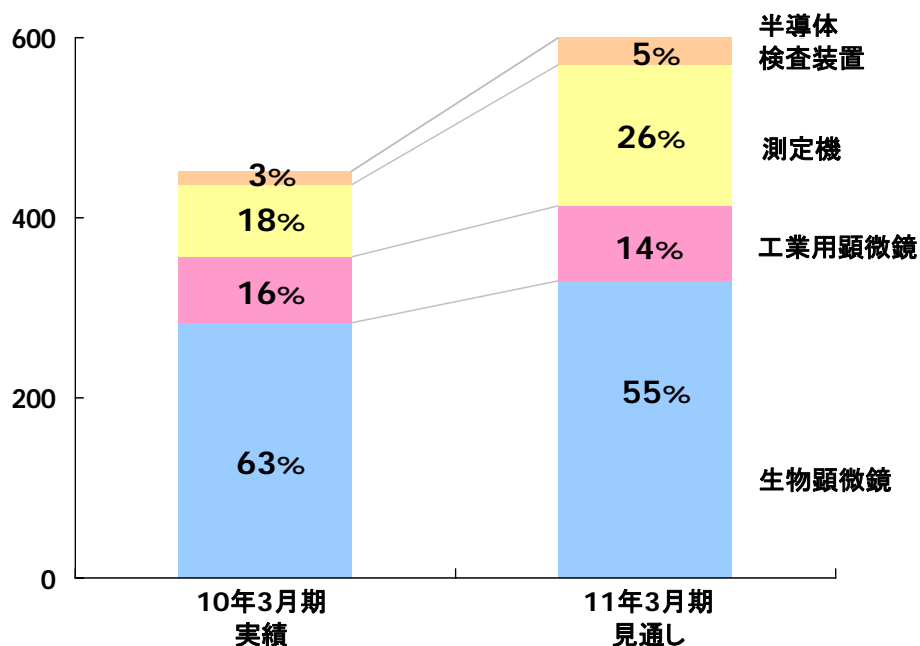


2011年3月期見通し インストルメンツカンパニー



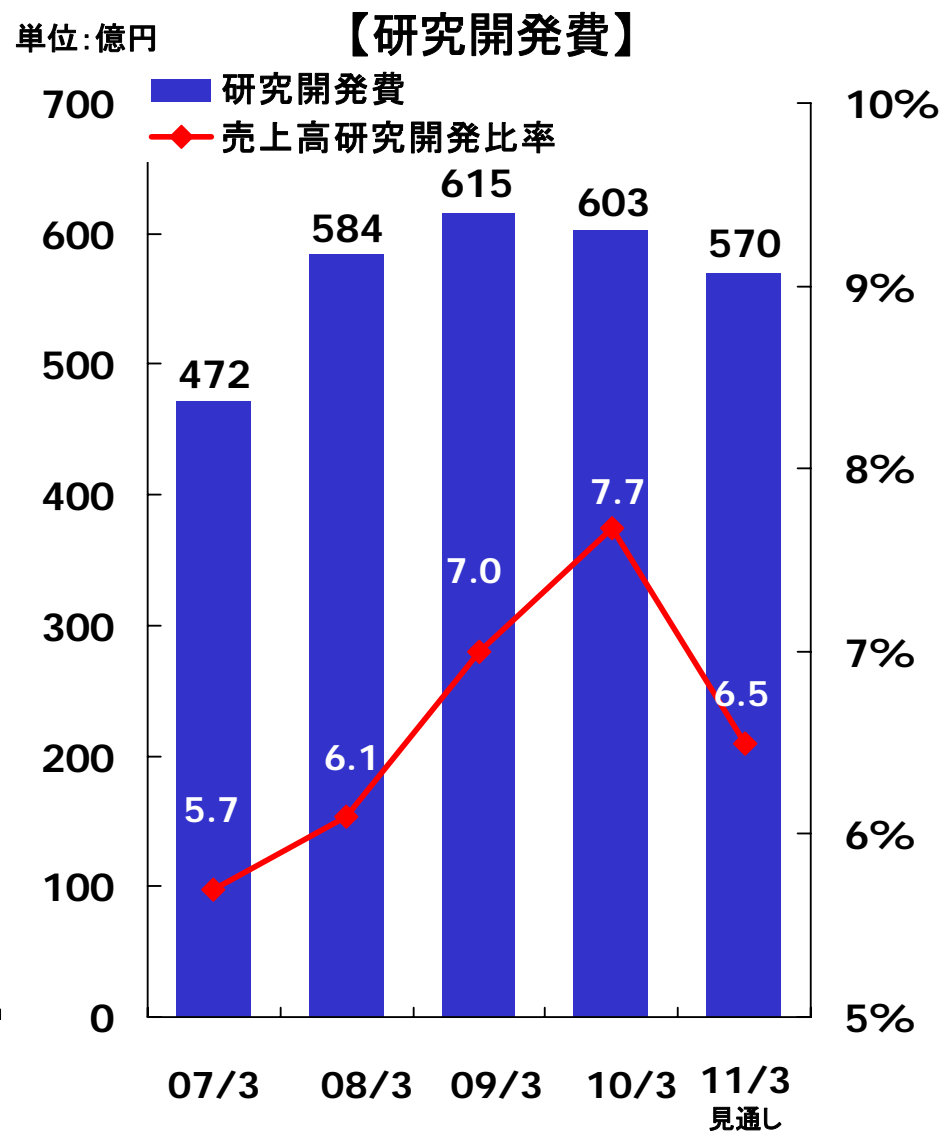
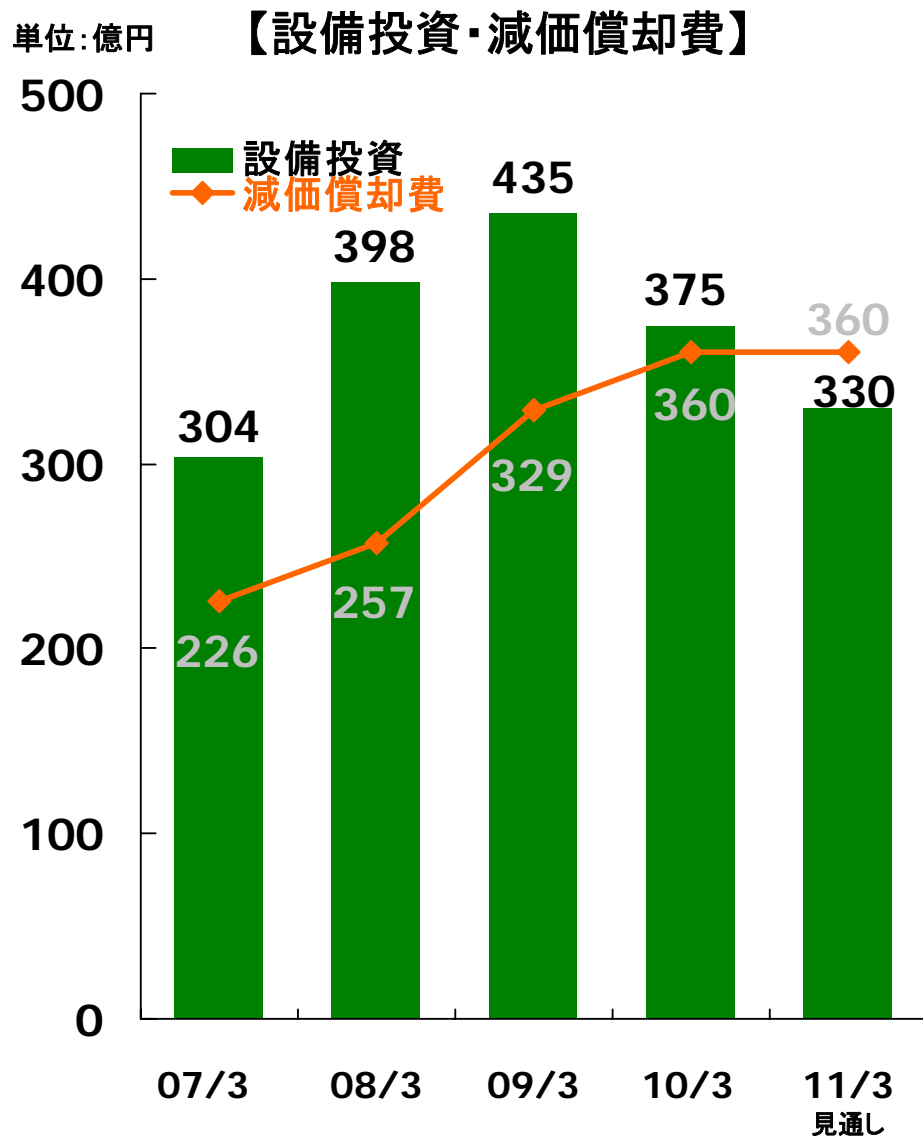
	10年3月期 実績	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期
売上高	451億円	$\frac{178}{273}$	600億円	$\frac{250}{350}$
営業利益 <small>売上高比</small>	▲93億円 <small>-%</small>	$\frac{\blacktriangle 26}{\blacktriangle 67}$	▲55億円 <small>-%</small>	$\frac{\blacktriangle 50}{\blacktriangle 5}$

単位:億円



前年比増収、かつ前年のような統合関連の一時費用がないことから、赤字幅縮小。下期には産業機器事業の回復が進み、営業赤字はゼロに近づく

2011年3月期見通し 設備投資・減価償却費 研究開発費



注) 09/3以降には、リース会計基準の変更に伴うリース資産の取得額を含む。

- ◆世界的な景気後退から回復基調にあるが、産業・地域によって温度差あり。為替は円高基調を想定
- ◆主力事業の競争力を一段と強化、収益力を高めて成長軌道への回帰を確実なものとする

【精機】

- ・液浸スキャナー「NSR-S620D」は、計画通り完成度を向上させ受注を確保
- ・液晶露光装置は、活発化する中国にも積極的に対応

【映像】

- ・円高対応力、ものづくり力を強化し、一層強固な体質へ改善
- ・新世代デジタルカメラの開発推進
- ・成長著しい新興市場での販売・サービス、ブランド力を強化

【インストルメンツ】

- ・バイオサイエンス事業、産業機器事業の強化拡大

- ◆下記の株主還元方針に基づき、年間配当金19円（中間配当金5円）を予定
将来の成長に向けた事業・技術開発への投資を拡大し、競争力強化に努めるとともに、株主重視の観点から安定的に配当を行うことを基本としながらも、業績の反映度を高めていく方針の下、総還元性向 25%以上を目標とする

Agenda

I . 2010年3月期の概況

II . 2011年3月期の見通し

III . 参考データ



2011年3月期 見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	11年3月期 前提	売上高	営業利益
USドル	90 円	約 49 億円	約 7 億円
ユーロ	120 円	約 14 億円	約 9 億円

参考データ 2011年3月期業績見通し

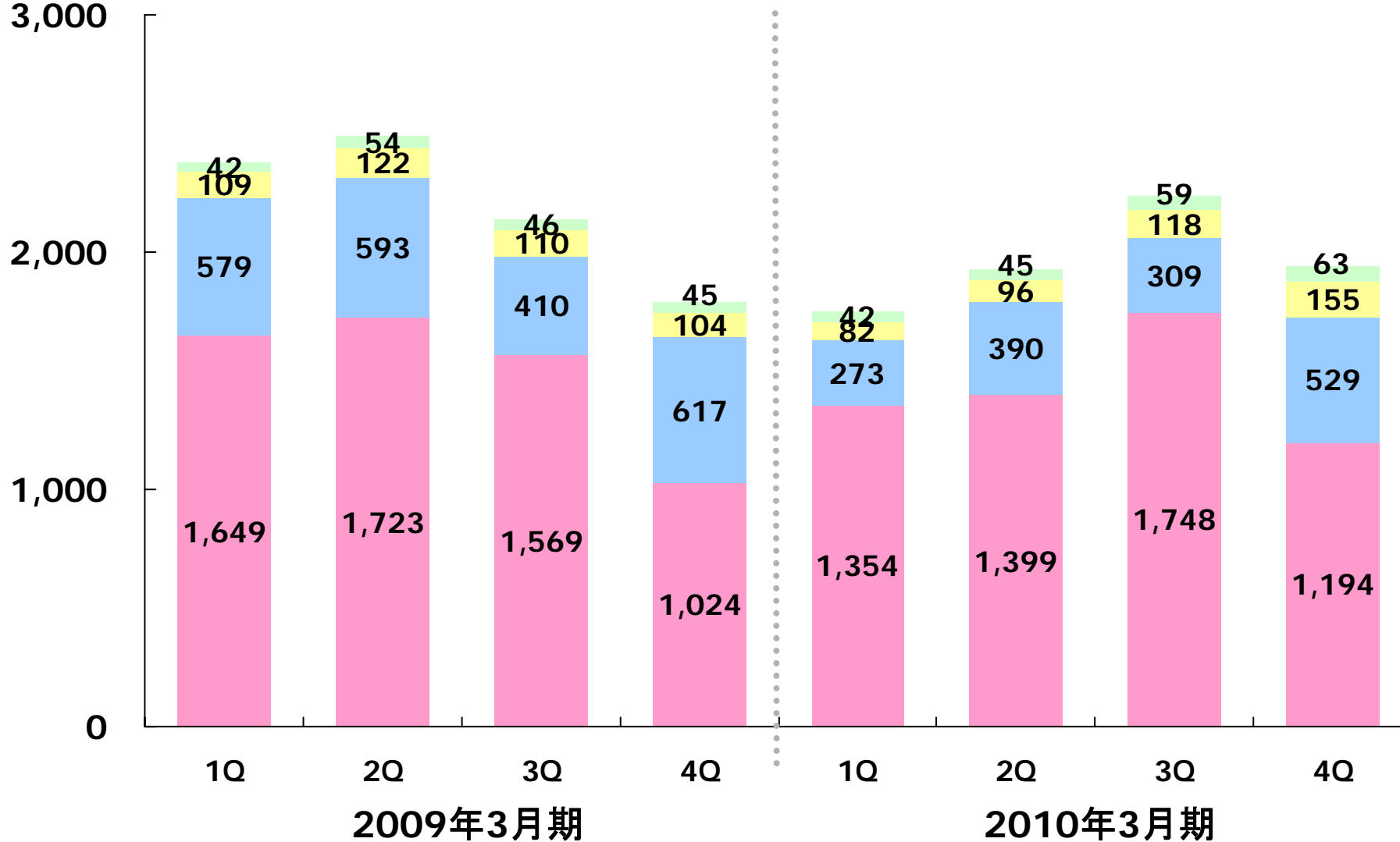


単位: 億円		10年3月期 実績		11年3月期 見通し	
営業利益	上期	▲139	▲195	520	75
	下期		56		445
営業外損益			▲14		▲20
経常利益	上期	▲153	▲223	500	70
	下期		70		430
特別損益			▲23		▲20
法人税等			▲50		180
当期純利益	上期	▲126	▲177	300	40
	下期		51		260

参考データ 四半期セグメント別売上高推移



単位:億円
3,000

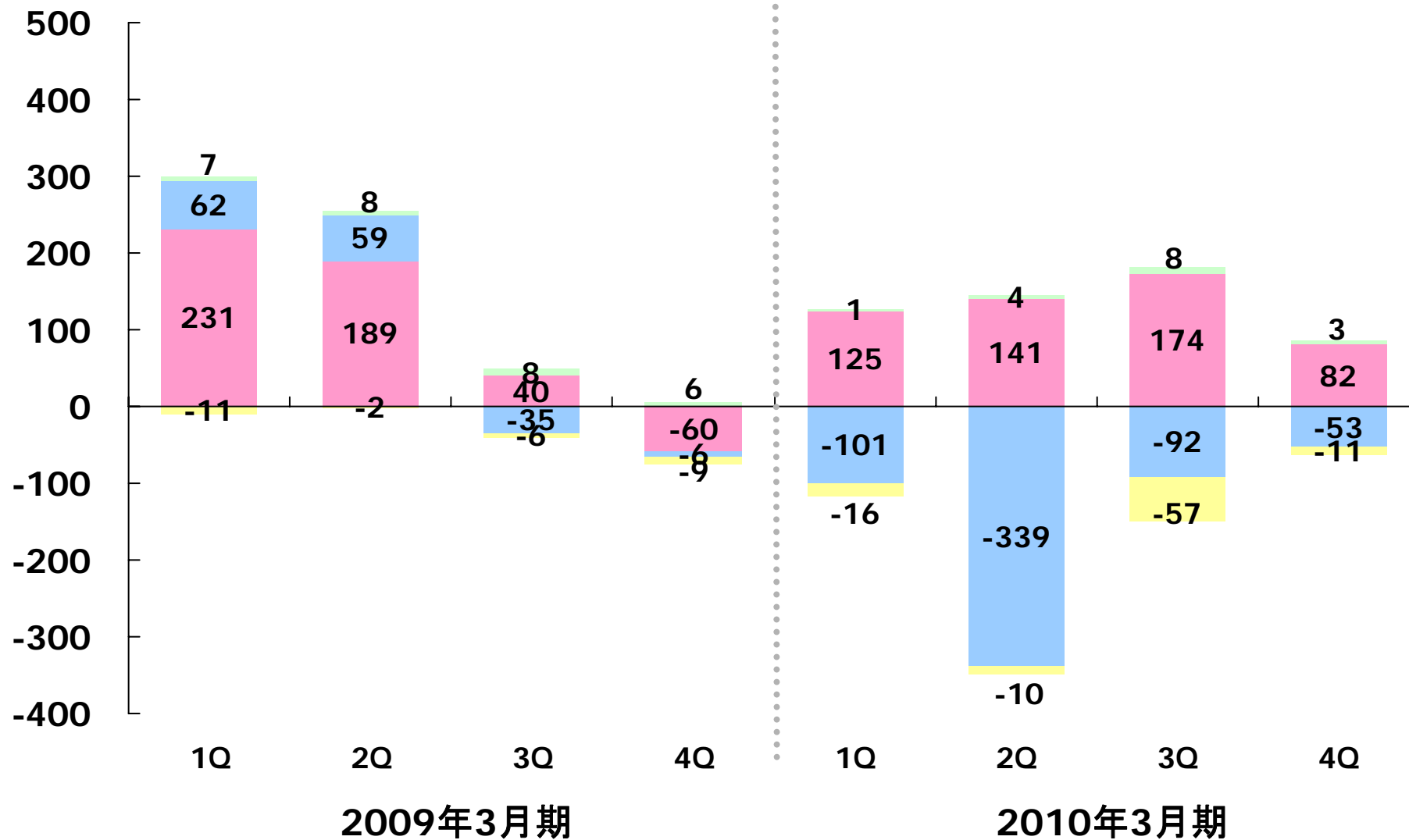


映像カンパニー
 精機カンパニー
 インストルメンツカンパニー
 その他の事業

参考データ 四半期セグメント別営業利益推移



単位:億円



映像カンパニー
 精機カンパニー
 インストルメンツカンパニー
 その他の事業